



## 令和5年度のセンター研修が始まりました

令和5年度の教育センター研修講座及び教育支援センター研修講座が7月21日（金）から始まりました。今年度は、教科等教育研修とセミナー研修をあわせて28講座を開講し、すでに前半の講座は終了しています。多くの先生方に参加していただき、誠にありがとうございます。後半は、8月21日（月）から23日（水）に実施いたします。多くの先生方が新しい視点を持ち、指導力の向上につなげることで、充実した授業ができることを期待しています。



教科等教育研修  
「生活科・総合的な学習の時間」



授業づくりセミナー  
「授業の質の向上を目指して」

### コラム 学びと育ちのMI 《No.01》

MIと聞いて何を思い浮かべますか。Materials Informatics? 3人組ガールズバンド? … いえいえ、ここでは“Mission Impossible”トムクルーズ主演映画です。

子どもたちが今日こんなことがわかったよ、と言いながら学校から楽しそうに帰る姿は何よりうれしい姿ですが、わからないことがわかることは不思議です。今まで見えなかったものが見える、…わからなかったことがわかることはどのように可能になるのでしょうか。数学の図形の重なりの中に新たな図形が見えて面積の計算ができるようになる…。つながらないと思った言葉と言葉がつながって「ああ」と腑に落ちる。ブルタバ(モルダウ)の曲の中に聴こえていなかったハーブの音が聞こえてくる…。あるいは子どもたちは時々「もう少しでわかりそうだ」と言ったりします。しかし、まだわかっていないのにどうしてわかりそうだとわかるのでしょうか。

「わかる」ことは、無から有への変化に見えますが、決して真っ白な白板とかHDやメモリに文字やデータを書き込むことではありません。子どもたちはすでに素朴な知識を持ち、それがつながった概念の構造や図式を有しています。それらが変容したり、新たに形成されたりすることが「わかる」ということです。そのためには「他者」との対話が必要になります。

見えなかったことを見出し、わからなかったことがわかり、新たな概念のつながりを生み出すことは「不可能が可能になる(可能にする)」ことです。この“MI”を成し遂げるのは、他者との関わりの中での子ども自身の思考と探究であり、その主人公はその子自身です。さらに、その学びを生み出す教室をつくるのは教師たちの“MI”です。一人一人の教師なくして、この“MI”は達成されません。教師一人一人がトム・クルーズだと言ってもいいでしょう。

学びや育ちに関する“MI”については、いくつもの不思議があります。不可能が可能になる不思議としか言いようがないポイントがあります。そのことを次回以降、またこのコラムでみなさんといっしょに考えていきたいと思えます。よろしく!

### ノッポさん

皆さんは「ノッポさん」をご存知でしょうか。今年の5月に残念ながら亡くなりました。ノッポさんはNHK教育テレビで1990年まで約20年間続いた「できるかな」という番組のキャラクターです。チューリップハットをかぶったノッポさんが、段ボールやガムテープでさまざまな玩具をつくりまわります。その様子を、子ども達は夢中になって観ていました。皆さんの中にも、夢中になって観ていた方もいることでしょう。

番組中、ノッポさんは一切しゃべりません。しかし、どうして、あんなに子ども達を夢中にさせるのでしょうか。想像力をかきたてる? 変わっていくおもしろさ? 言葉がなくてもおもしろさが伝わっていたのは確かです。

授業は、どうでしょうか。言葉は溢れていても大事なことが伝わっていないときがあるのでは?



## 生成AIについて考える

今、Chat GPT等の生成AIが話題です。7月に文部科学省から『「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について』という通知が出され、さらに須賀川市教育委員会からも「長期休業中の課題等におけるChat GPT等の生成AIの利用について」という文書を発出しました。生成AIとは、大量の学習データから文章や画像、音声などを作ってくれる人工知能で、条件を入れるとあっという間に文章を作成したり、文章の翻訳や要約、料理のレシピや旅行のプランなどを作ってくれたりします。たとえば、「熱中症対策のお願いの文書を保護者向けに作ってほしい」と入れると、すぐに作ってくれます。とても便利なもので、学校現場でも、文書作成などに利用できれば働き方改革の一助となり、とても期待できるものですが、不安の部分もあります。

7月の市教育委員会から出された文書にもあったように、子どもたちがコンクールなどに出品する場合、生成AIで作った作品を出品することは、不正行為にあたるので出品できません。また、生成AIが誤った回答を出すケースも多く見られます。現在、生成AIの使用については小・中学生ともに保護者の同意がなければ使用できないことになっています。

このような制限や欠点があることを私たちを含め、子ども達や保護者にも理解してもらう必要があるでしょう。ある調査によると、生成AIの使用に関して不安を感じている保護者も多いようです。「思考力や記述力が育たなくなる」「AIに依存しすぎる」「どのような影響を及ぼすかわからない」などの不安を挙げています。今後、AI使用の検討が必要です。

ところで、平成29年に告示された学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針に次のような文章があります。

「…こうした変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化を挙げることができる。人工知能が自らの知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校における獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。このことは同時に人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再確認につながっている。」

これからも教育現場にAIの波がどんどん押し寄せてくるでしょう。しかし、AIを使うのは人間です。私たちがAIのメリットとデメリットをしっかりと理解し、人間の強みを大事にして効果的にAIを使用していくことが重要になってきます。これからもAIの動向をしっかりと注視し、使用の仕方等について模索していきたいものです。

生成AIの須賀川市の学校での利用については、まだ検討中であり、今後、市教育委員会から通知が出されることとなります。



今年の夏も猛暑が続いています。最近、外出時に日傘をさしている方を多く見かけます。先日、部活動のために学校に行く中学生が日傘をさしているのを見かけました。また、登下校時、半袖、短パンを認める中学校も出てきました。これだけ猛暑が続くと、登下校する児童生徒を守るためにどのような方法があるのか、再度、みんなで考える必要があります。9月になっても、暑い日が続く可能性があります。子ども達の目線にたって子ども達の命を守っていきましょう。

